

平成20年 7月25日

林政審議会施策部会委員から出された主な意見

平成20年7月24日（木曜日）に開催された林政審議会施策部会において、平成20年度森林・林業白書の検討に当たり、取り上げるべき事項や今後求められる施策等について意見交換が行われ、委員から以下のような意見が出された。

- 地球温暖化の防止をはじめとする森林のもつ多面的機能を持続的に発揮するための森林の整備・保全の方向性を明らかにするとともに、合法木材や認証材の利用等による木材利用面からの持続可能な森林づくりの方向性について記載すべき。
- 地球温暖化対策では地域における取組が重要であり、暮らし方や木材の良さを活かした利用方法などについて優良事例等を示しつつ記載すべき。
- 地球温暖化防止の観点からの森林整備の方向性ととも、生物多様性の観点からの森林の取り扱いについても記載すべき。
- 木材の自給率の動きについては、近年向上している理由について分かりやすく解説し、今後更に高めるには何が必要かが読者が理解できるように記載すべき。
- 再生産可能な循環型資源である森林について、内外価格差の生まれる背景について記載するとともに、林地残材を含めて総合的に利用していく姿など、山元に収益をより一層還元していくための取組について記載すべき。
- 先般の岩手・宮城内陸地震における山地災害の現状を踏まえ、当該地域において国有林等が実施してきた治山事業の効果等について記載すべき。